

1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

冷やしコーヒーをのんで帰り道をたどるころ、タぐれの気配^{けはい}が町をつつみはじめた。気がつくといつのまにかアブラゼミの大合唱はやみ、どこかでヒグラシが鳴いている。

おばあちゃんがタゴはんの用意をするあいだ、ユイとタクミはおじいちゃんを手つだって、庭に水まきをした。おふる場の戸口のすぐ外にある、小さな井戸^{いど}の手こぎポンプを（a）おして、バケツに水をくみこみ、その水をでっかいひしゃくで庭の花や木の根もとにまいてやるのだ。庭じゅうに水まきをするためには、何回もバケツに水をくんで、何回も井戸と庭を往復しなければならぬ。

「きょうは助手がいるから、らくちん、らくちん」

おじいちゃんは、井戸ばたで水をくんだり、庭までバケツをはこんだりするユイとタクミを見て、うれしそうにいった。

「おじいちゃん、今晚^{こんばん}、ホタル見につれてってよ」

タクミは、すかさず、おじいちゃんにおねだりをする。

「うーん、そうだなあ」

おじいちゃんは、庭^①の上にひろがる夕空を見あげて考えこんだ。

「こんなにいいお天気じゃあ、ホタルは出ないかもしれないぞ。ホタルは、どんよりくもって、（b）した夜がすきなんだ。雲が夜空をおおっていると、星の光も月の光もさえぎられるから、ホタルの光がよく見えるだろ？　そういう夜に、ホタルは光のことばで仲間どうし、よびあうんだよ」

一日じゅうかがやきつづけていた太陽は、いまやっと、しずみきろうとしているようだった。一日の最後のバラ色の光が、庭をつつむ空気をピンク色にそめあげ、なにもかもを美しくかがやかせている。

「ごはんですよ」

おばあちゃんの声が聞こえた。

ユイたちが手をあらって家にはいっていくと、居間の座卓^{ざたく}の上には、ごちそうがならんでいた。アユの塩焼きにコイのあらい、つくねだんご入りのおみそ汁^{しる}、名水豆腐^{めいすいどうふ}の冷ややっこ、そして、おばあちゃんがぬか床^{どこ}でつけた、色あざやかなキュウリとナスとキャベツのおつけもの。

「わあ！　おいしそう」

「ごちそうだあ！」

ユイもタクミも、おばあちゃんのつくってくれたタゴはんをもりもりと食べた。

その夕飯のさいちゅう、おばあちゃんが、^②「あれ？」と縁側^{えんがわ}のほうに目をあげた。外はもうまっ暗だったが、居間の障子戸^{しょうじど}も、縁側のガラス戸も、まだぜんぶあけはなたれている。日がおちると蚊^かが出るというので、縁側のすみでは、うずまき形^{がた}の蚊とり線香^{せんこう}に火がつけられ、そのなつかしいようなにおいの煙^{けむり}が、庭からの風に（c）とゆらめいていた。

おばあちゃんは外に目をむけたまま、耳をすましていた。ユイも、はっと気がついた。暗い庭先から、しとしとと、やさしい雨の音がひびいてくる。

「え？　雨？」

タクミも、おどろいたようにいって、座卓のまえでこしをうかし、外のようなすをうかがった。

「雨だ！　あんなに晴れてたのに、雨がふってる！」

おじいちゃんは、タクミのことばにためいきをついた。

A

「ホタル、出る？　ホタル、出るんじゃない？」

タクミは、軒端^{のきば}からポタポタとおちはじめた雨のしずくを見つめ、うきうきしていった。

B

おじいちゃんがいう。

C

国語 (二まいめ)

しかし、まるでそのことを聞いていたみたいに、やさしい雨は、それからしばらくするとあがってしまった。ちょうど、ユイたちの夕ごはんが終わるのを見はからっていたみたいだ。

「ホタル、出るよね？ ね？ おじいちゃん。ホタル、見られるでしょ？」

からっぽになったごはん茶わんに、お茶をそそいでのんでいたおじいちゃんは、ハアッといきをはいて、とうとう、うなずいた。

「そうだな。こうなったら、ホタルを見にいかないと、しょうがないなあ。じゃあ、ちょっと町役場の橋のあたりまで、車でいってみるか」

「やったあ！」

タクミがガッツポーズをするのを、おばあちゃんは、にこにこ見つめてうなずいた。

「せっかく、あんたたちが夏休みに門前町へきてくれたから、お天気もホタルも、気をつかってくれるんかもしれへんよ。絶好のホタル日和びよりになったねえ」

夕飯のかたづけをみんなでさっさとすませ、ユイとタクミとおばあちゃんは、おじいちゃんの車にのって、雨あがりの夜の町に出かけた。

(中略)

まだ夜の八時だというのに、すっかりシャッターのおりた商店街を通りすぎ、おじいちゃんは町役場の駐車場ちやうしやじやうに車をとめた。車から外に出ると、人の話し声がした。

「ほら、あっち、あっち」とか、「あそこでも光ってる」とか、いいあっている。

ユイたちのほかに、ホタル見物の人たちが夏越川なごしがわにくりだしているようだった。

「どうやら、ホタル、出てるみたいだな」

おじいちゃんがおばあちゃんにいうのを聞いて、ユイとタクミは、もう、まぢきれなかった。^③

「先、いくね！」

そういつて走りだすタクミを見て、ユイもおもわず、負けじとダッシュする。

「橋のところで、まっついてよお」

おばあちゃんの声がおっかけてくるのをうしろに聞きながら、ユイとタクミは駐車場のうらへ走っていった。

「ホタル、めっけ！」

ユイより一歩先をいくタクミがさげんだ。

「あたしも、みつけたもん」

役場の建物のうらの植えこみや草むらの中に、ぽちん、ぽちんと、小さな光が見える。音もなく小さな光がともったり、消えたり、闇やみの中で呼吸こきゅうをしているみたいだった。

建物を通りすぎた先の橋には、何人もの人影ひとかげが見えた。橋がまたぐ川すじに身をのりだし、口々にいいあうのが聞こえる。

「あっち、あっち！」

「あ……、あそこも！」

「たくさん出てるねえ」

「きれいねえ……」

こんどこそタクミに負けまいと、ユイは橋にむかって走った。

「あ、おねえちゃん、ずるい！」

タクミを追いかし、一歩早く橋の上のゴールにたどりついたユイは、手すりから暗い川面かわもをのぞいて、「わあ！」と歓声かんせいをあげた。

「すっげえ！」

国語 (三まいめ)

ユイのうしろから身をのりだしたタクミも、いきをのんでいる。^④

黒々とひろがる闇の中を、かぞえきれないほどの光の点が、しずかにまたたきながらただよっていた。まるで、夜空からきりとった銀河^{ぎんが}が、闇の中にうかんでいるみたいだ。小さな小さな星のかげらのような光は、それぞれが闇の中を飛びまわり、ゆきかいながら、全体で大きな光のつぶのかたまりになって、川すじの上を、あっちにふくらんだり、こっちに流れたり、ゆっくりとどうしていた。その群れからはぐれたホタルが一つ二つ、橋の上のほうまであがっていると、見物の人たちが、いっせいにうちわをさしだす。さしだされたうちわの先に、ぽちっとホタルがとまろうものなら、見物の人々のあいだからは、うれしそうな声があがった。

「おお、けっこう出てるなあ」

うしろから、おじいちゃんの声が聞こえた。おじいちゃんたちも橋にたどりつき、ユイのうしろから、飛びかうホタルをながめている。

「むかしは、もっと多かったんやけどねえ」

「おばあちゃんが小さいころは、竹ぼうきをもってきて、ほうきでホタルをとったんやで。ホタルの群れの中でほうきをふると。ほうきの先っぽに、たくさんホタルがくっついてね、それを家にもって帰って、庭にはなしたもんやわ」

(富安^{とみやす} 陽子^{ようこ} 『シノダ! 夏休みの秘密^{ひみつ}の友だち』より)

(注) 軒端……やねのせり出したところ。

くりだしている……出かけること。

ホタル日和……ホタルを見るのによい条件の日のこと。

(1) ①の文章中の (a) (c) に入ることをばの組み合わせとしてよいと思われるものを、次のアエから一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|--------|---|--------|---|--------|
| ア | a | じめじめ | b | ガチャガチャ | c | ふわりふわり |
| イ | a | ふわりふわり | b | ガチャガチャ | c | じめじめ |
| ウ | a | ガチャガチャ | b | ふわりふわり | c | じめじめ |
| エ | a | ガチャガチャ | b | じめじめ | c | ふわりふわり |

(2) ①の文章中の A C に入る会話文としてよいものを、次のアエから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 「まあ……、これで雨があがればね」
- イ 「もうちょい早くふってくれれば、水まきをしなくてすんだのになあ……」
- ウ 「雨がふっていると、これまた、ホタルは出てこないからね」

(3) ①の文章中に——線部①「庭の上にひろがる夕空」とありますが、どんな空であったと考えられますか。次のアエからよいと思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア どんよりとくもって今にも雨がふりだしそうな空
- イ バラ色の光がなにかを美しくかがやかせている空
- ウ 太陽が高いところでまぶしくかがやいている空
- エ まっ暗で何も見えずホタルの光だけがよく見える空

国語 (四まいめ)

(4) ①の文章中に——線部②「あれ？」と縁側のほうに目をあげた。」とありますが、おばあちゃんが目あげた理由にあたる一文をぬきだし、最初の五字を答えなさい。(句読点と記号も一字と数えます。)

(5) ①の文章中に——線部③「もう、まちきれなかった。」とありますが、何をすることをまちきれなかったのですか。五字でぬきだして答えなさい。(句読点と記号も一字と数えます。)

(6) ①の文章中に——線部④「いきをのんでいる。」とありますが、この時タクミは、何を見てどのような気持ちになっていますか。次の文の空らんにあう形で答えなさい。

を見て

2 次の文章は環境エネルギーのことを考えて、地域の人々がお金を出し合って作ったデンマークの「マイ風車」についてのものです。あとの問いに答えなさい。

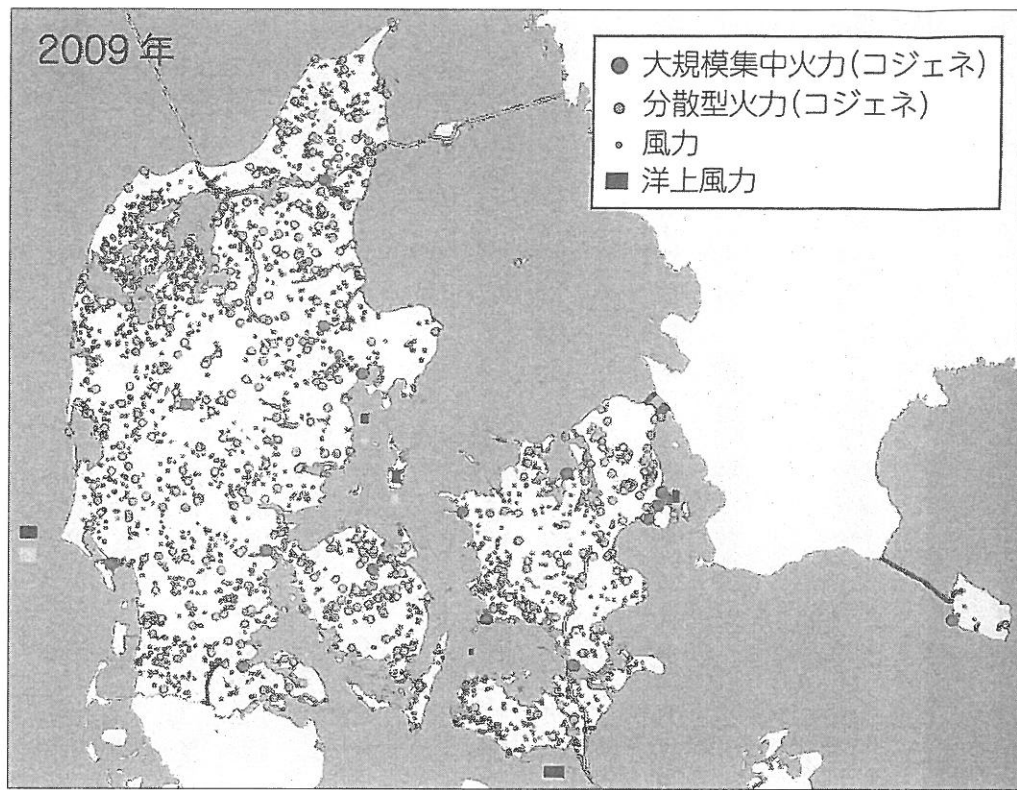
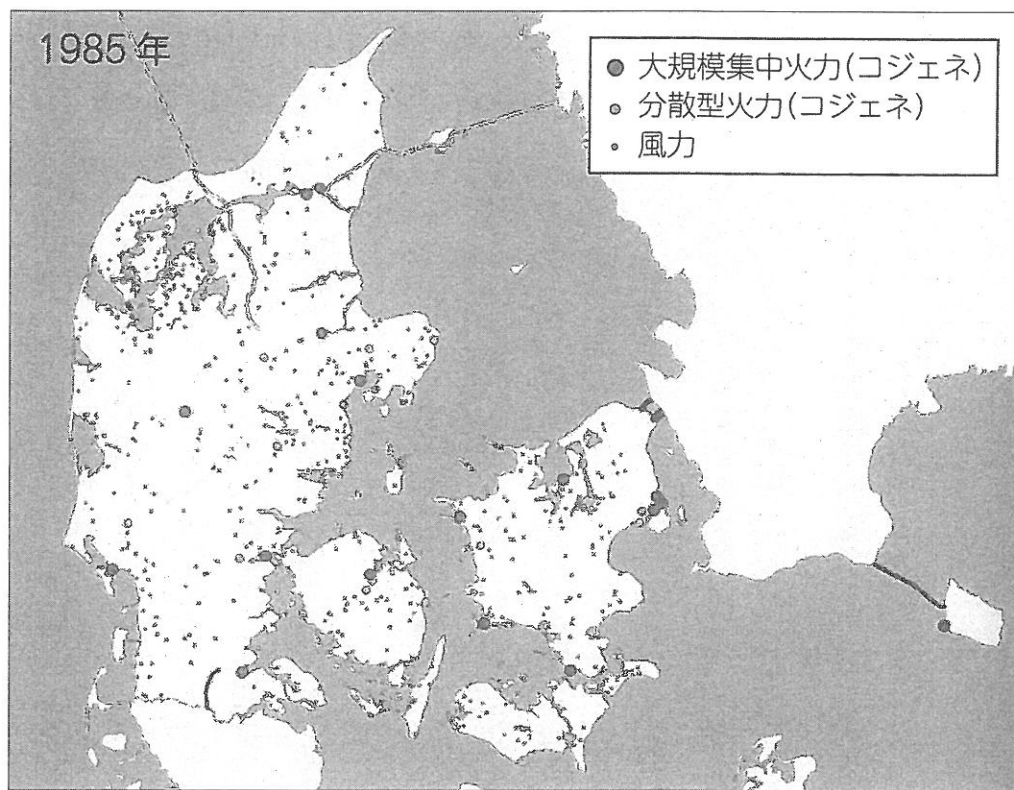
どこかの知らない人がつくった風車であれば愛着はわきませんが、自分たちでお金を出してつくったデンマークの「マイ風車」は、地域の人に愛される存在になりました。収益のことだけを考えたらくよく風が吹く条件のよい地域の風車に出資した方がもうかります。

A デンマークでは、ほとんどの人が自分が暮らす地域の風車に出資しました。そこに、金額では計れない価値を感じているからです。地域の人のお金でつくった風車は地域のエネルギーを生み、それが地元企業の雇用につながることで地域経済にいい影響を与えました。

協同組合とともにデンマークのエネルギーシフトを支えたもう一つのキーワードは、各地に立ちあがった「環境エネルギー事務所」です。環境エネルギー事務所とは、それぞれの地域にいるエネルギーの専門家で、事業をすすめるコーディネーターの役割をになっています。一九八〇年代に各地で発電やエネルギーについての議論がおきるなか、このような組織ができる土台がつけられていきました。一般の人がエネルギーに取り組もうと思っても、何からはじめたらいいかかわりません。そんなときは、自分の地域にある環境エネルギー事務所へ相談に行きます。そこには、知識やノウハウを持っている人がいて、エネルギーに関するお金のことや法律、準備の仕方や呼びかけ方などを、いっしょに考え行動してくれるのです。

人口四〇〇〇人の小さな島、サムソ島でも、この環境エネルギー事務所の活躍によって、いまでは電力の一〇〇%以上と、熱エネルギーの七〇%以上を自然エネルギーでまかなうようになりました。サムソ島は、ジャガイモやチーズを名産とする農業と牧畜が中心の島です。しかし、一九九〇年代は若者達が都会に出てしまい、過疎化、高齢化がすすんだことで、産業も衰退をはじめていました。そこで、島の人たちは自然エネルギーを活用して島を盛り上げる道を選びます。その取り組みの中心がサムソ島環境エネルギー事務所のコーディネーターをつとめたソーレン・ハーマンセンさんでした。

そこでソーレンさんは、一〇年の歳月をかけてほとんどの島民と対話していきました。そのとき大切にしたのは、「自然エネルギーを導入するために理解してもらおう」という姿勢をとるのではなく「島の将来にとって私たちにいま何ができるのか」という問いかけでした。ソーレンさんのそのような態度に共感した人たちは、徐々に行動をおこし、最終的には風力発電の組合に参加するなど、主体的に関わるようになっていきました。



そして地域の人が所有する風力発電と、各世帯に暖房を送るパイプラインなどが島中につくられ、いまでは島で使いきれないほどの風力発電の電気を売って、農家の収入が増えました。サムソ島は世界的にも有名になり、多くの観光客も訪れるようになっていきます。

…………… (ウ)

サムソ島におきたような変化が、デンマーク各地でおきました。そこに関わった人みんなが環境意識が高かったというわけではありません。実際に風力発電や省エネをすることで、地域が豊かになることを実感したのです。風力発電だけでなく、木材や麦わらなどのバイオマスを利用した暖房システムやコージェネレーション設備(コージェネ)、さらには省エネ住宅の開発などの省エネ分野でも発展していきました。

…………… (エ)

① コージェネレーションの「コ」とは、「二つ」を意味しています。その名のとおり、発電と熱利用の二つを同時におこなうシステムです。従来の電気をつくるだけの発電機とはちがひ、発電時に出る熱を捨てず、暖房や給湯などに利用するものです。

イメージとしては、石油ストーブの上にヤカンを置いて、その熱でお湯を沸かすことがあります。これは暖をとりながらお茶が飲めて、一石二鳥です。そうした複合的なエネルギー利用を効率的にしたものと考えてください。熱は遠くには運べないので、コージェネは主に大型の施設や集合住宅、店舗などに導入したり、地下にパイプを通して、地域の個別住宅の暖房として活用されています。サムソ島に導入されているのも、こうした地域暖房です。

第2章(※本文は第3章からの出典である。)で、日本ではエネルギーの半分以上が有効活用されずに捨てられているという話を紹介しました。逆にコージェネが普及して熱を捨てる割合が劇的に減ったデンマークは、国際エネルギー機関(IEA)からエネルギー効率がとても高い国という評価を受けています。

「エネルギーシフト」が、火力発電の電源をたんに自然エネルギーに変えるだけではないということとは、デンマークの発電所の移り変わりを見ればよくわかります。一九八〇年代中ごろまでのデンマークの電源は、大型の火力発電所がいくつか点在するだけでした。しかし、地域をベースにした風力発電所やコージェネが広まり、小規模分散型にシフトしたのです(上の図)。

しかもこの間、エネルギー消費量を一九八〇年代のレベルにとどめながら、経済成長を実現させて

国語 (六まいめ)

います。このことは、エネルギー効率の追求や自然エネルギーを推進することが、環境だけでなく経済にもいい影響を与えることをしめています。日本では、大量の化石燃料を外国から買って消費しつづければ貧しくなると信じている人がいまでも多いのですが、それは誤解です。

日本からすれば先進的なデンマークですが、現状に満足しているわけではありません。現在は、電力の一〇〇％を自然エネルギーにするだけでなく、二〇五〇年には車や飛行機の燃料も含めたすべてのエネルギーで、化石燃料から脱却するという野心的な目標をかげています。

もちろんこれは世界初の挑戦で、道のりは険しいものとなるでしょう。しかしデンマーク政府は「高騰しつづける化石燃料に頼ることはできない」と宣言し、着々と計画を実行しています。その方針がいずれ、自国の経済や市民生活を助けることになるかと確信しているからです。

(高橋 真樹『“ご当地電力はじめました!”より』)

(注) 出資……………資金を出すこと。

雇用……………働いて給料をもらう約束をすること。

シフト……………変えること。

コーディネーター……………物事を調整する人。

ノウハウ……………知識、あるいは技術のこと。

過疎化……………ある地域の人口などが少なすぎること。

バイオマス……………エネルギーや工業の原料として利用される生物のこと。

脱却……………すて去ること。

高騰……………物価(ものの値段)などが高く上がること。

(1) ②の文章中の **A** の中に入れるとよいと思われるものを、次の **A** から一つ選び、記号で答えなさい。

A でも **イ** すると **ウ** または **エ** それとも

(2) 次の文章は②の本文からぬきだしたものです。この文章は、本文中の (ア) と (エ) のどこに入りますか。よいと思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ソーレンさんはサムソ島出身で、島の事情をよくわかっていました。四〇〇〇人の小さな島といっても、農業をやる人、漁業をやる人、住んでいる地域や環境意識のちがいなどで、自然エネルギーへの関心の度合いはまったく異なります。そこに、都会からやってきた専門家やコーディネーターが理想的なことを言っても、なかなか理解されません。彼はそのことをよくわかっていました。

(3) ②の文章中に——線部①「コージェネレーション」とありますが、「コージェネレーション」について本文ではどのように述べられていますか。次の **A** からふさわしく、ないと思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- A** 熱は遠くには運べないので、ごく近い地域の個別住宅の暖房として活用されている。
- イ** 石油ストーブの上にヤカンを置いてその熱でお湯を沸かすようなイメージである。
- ウ** 各家庭では暖房としての機能だけでなく、お茶も飲むことができ一石二鳥である。
- エ** サムソ島では大型の施設や集合住宅、店舗などに導入されていない。

国

語

(七まいめ)

(4) ②の文章中の二つの図を見て、Bに入れるとよいと思われることを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 小さい設備が無数に増える
- イ 小さい設備が次々に減る
- ウ 大きい設備が無数に増える
- エ 大きい設備が次々に減る

(5) ②の文章全体を通してのべられている内容として、よいと思われるものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 地域の人のお金でつくった風車で海外のエネルギーをつくり、それが地元企業の雇用に直接つながっている。
- イ 環境エネルギー事務所とは、国が決めたエネルギーの専門家で、事業をすすめるコーディネーターの役割をになっている。
- ウ コジェネが普及して熱を捨てる割合が劇的に増えたデンマークは、IEAからエネルギー効率がよく高い国という評価を受けている。
- エ デンマークでは二〇五〇年には車や飛行機の燃料も含めたすべてのエネルギーで、化石燃料から脱却するという野心的な目標がある。

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

国語

受験番号

(注 ※のついたカッコの中には何も記入しない)

1

(1)

(2)

A

B

C

(3)

(4)

5

5

(5)

5

5

5

(6)

を見て

。

。

2

(1)

(2)

3

3

(4)

(5)

5

5

3

(1)

(2)

6

6

(3)

(4)

3

3

(6)

a

ケイカン

。

b

アラタ

めて

国語

受験番号

(注 ※のついたカッコの中には何も記入しない)

1

(1)

(2)

B

C

(3)

(4)

5

(5)

5

(6)

を見て

。

2

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

(6)

a

ケイカン

b

アラタ
めて

3

(1)

(2)

6

(3)

(4)

(5)

3

※

※

※

※

※

※

※

※